「遊び」を通じて地域の関わりあいを育む〝あおぞらまちあそび事業〟
2024年度実施報告

［期間：2024年7月～ 2025年2月］

シミンズシーズ

事業概要

（1）中間支援団体である当法人が運営する保育園が主体となり、地域団体の活動支援という側面も踏まえながら、地域での顔見知りを増やす関係構築をねらい遊びを通じ世代や属性関係なく交流できる場を定期開催する。開催場所として公園等公共空間を活用し住民参加で実施する。

（2）保育・教育や地域づくり、子育て支援、子どもの健全育成等の分野の活動者を主な対象とした、まちづくりと遊びを掛け合わせた取り組みや環境づくりを学ぶ研修会を開催、市内外に取り組みを広げていくことを目指す。

開催数

12 回
研修1回含む

SNS 発信数（1月末現在）

34 回

ボランティア数（1月末現在）

62 名
事務局外の運営協力者

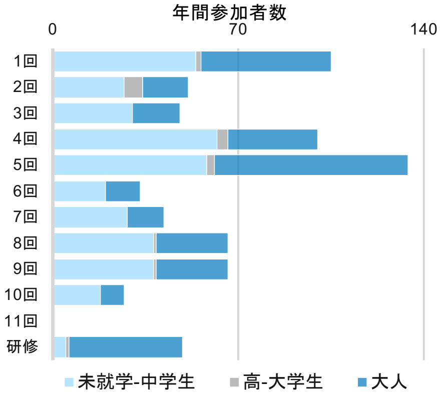
参加者数（1月末現在）

未就学～中校生(園児含む)　延べ 383 名

高校～大学生　延べ 19 名

大人　延べ 324 名

合計　延べ 726 名



事業の実施状況

開催回	年月日	場所	参加者〈園児含む〉（スタッフ）	活動内容 運営協力者(団体)
1回	7/30(火)	東播磨生活創造センター「かこむ」	91（14）	「木のおもちゃとボードゲームの回」 協力：木のおもちゃころころ、かこむ図書パートナー、保育園保護者 木のおもちゃでの遊びブースのほか、釘打ち体験など
2回	8/20(火)	東播磨生活創造センター「かこむ」	43（8）	「高校生とつくるオルゴールづくりの回」 協力：東播工業高校電気科　職員・学生 高校生と一緒に木製オルゴールの作成
3回	9/10(火)	かわのまちほいくえん	38（10）	「ゆうくんとハモ調理の回」（ハモの解体見学） 協力：魚屋　ゆうくん 魚屋によるハモの説明と解体見学、園児による調理と試食体験
4回	10/6(日)	かわのまちほいくえん	93（7）	「かわのまちあきまつり」 ほいくえん行事×かわのまちマーケット（商店街イベント）×本事業の取り組み ボランティアは学生を中心とする8名の参加
5回	10/26(土)	金剛寺浦公園	122（12）	「かわのまちうんどうかい」 保育園の行事を地域に開き、一般参加者とともに身体を動かして遊ぶことを目的に開催。 学生含む運営ボランティア9名の参加
6回	11/12(火)	日岡山公園	27（6）	「日岡山公園でフィールドゲームの回」 協力：うわみずざくらの会 自然観察をしている市民団体とともに自然体験遊び
7回	11/19(火)	金剛寺浦公園	31（11）	「秋のクラフト遊びの回」 協力：水辺の里公園 環境ユーイングてんま 近隣の公園を活用し、自然物を使って園児と一般親子参加のクラフト遊びを実施
8回	12/16(月)	かわのまちリビング	57（9）	「マンドリン演奏と音あそびの回」 協力：ら・マロン 地域の音楽活動をしている市民団体と企画。地域のレンタルスペースで実施
9回	12/25(水)	東播磨生活創造センター「かこむ」	62（9）	「クリスマスお楽しみ会」 協力：チャレンジナビ、折り紙同好会 市民団体2団体とクリスマスにちなんだ遊びや昔遊びを実施
10回	1/16(木)	かわのまちほいくえん	19（8）	「ふれあいたこづくりの回」 協力：加古川凧づくりの会 東播磨で活動する凧づくり愛好家の団体と園児、一般の親子と凧づくり
11回	2/12(水)	東播磨生活創造センター「かこむ」	未	「ふれあいパンづくりとお話の回」 協力：ベベクック、こえのとびら 地域のパンづくり教室とパンづくり、発酵時間に市民団体による読み聞かせ
研修会	10/20(日)	加古川総合福祉会館大ホール	33（16）	「～子どもも大人も地域もつながる～東播磨遊び場づくりフォーラム」 講師：TOKYO PLAY　高橋利道氏 先進事例の基調講演とパネルディスカッション、交流を兼ねた意見交換を実施

第２回

第６回

第９回

第８回

遊び場づくりフォーラム

総括

（1）・共に企画を行なった地域団体にとって、自団体だけでは接点を持ちづらい層や世代との交流機会となり、活動の幅を広げるきっかけとなった。
・参加した子どもたちにとって、近隣の療育施設等多属性の参加があったことで、共生という観点での体験的な学びとなった。
・同時に複数の団体の参加や、休暇中の小学～高校生、大学インターン生の参加があったことで、当事業を通してでしか交われないような新しい接点が生まれ、地域住民にとって顔見知りが増える場の創出につながった。
・平日日中の開催回においては参加者が限定的になってしまい、想定よりも一般参加やボランティアが少なかった。
・地域のニーズを探りながら参加の仕組みをどれだけうまくコーディネートしていくかが継続の鍵であると考える。
・療育施設児童の参加はあったが、大学やこども療育センターなど専門機関との連携には至らなかった。
専門機関との連携や行政との協働よる取り組みへのアプローチなど、今後の展望や継続に向けての課題である。

（2）・研修会の実施においては、東播磨地区で遊び場づくりに取り組む人など49名の参加があり、個人や団体が繋がる機会を創出した。
・来場者アンケートでは、「遊びでつながる場を地域で広げていくために今後も情報交換や交流の機会は必要か？」の質問において「とても必要/必要だと思う」の回答が100%を占めた。今後もこのような交流会を定期開催し、共に相談し合い協力するための、さらなるネットワーク強化に努めていく。